

教育学学位プログラム(博士後期課程)

基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA001	教育学特論I	2	1.0	1	秋AB	随時	藤田 晃之, 藤井 穂高, 平井 悠介, 田中 正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 清水 美憲, 濱田 博文, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 小松 孝太郎, 金 玆辰, 大谷 奨, 勝田 光, 丹間 康仁, 朝倉 雅史, 古田 雄一, 田中 怜	教育学研究の課題と方法について、担当教員の専門領域を中心に、検討する。その上で、担当教員の指導の下で、博士論文の構想を作成する。併せて専門領域の最新の研究動向も検討する。なお、博士論文構想発表会で、その構想を発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	
OBTA002	教育学特論II	2	1.0	2	秋AB	随時	藤田 晃之, 藤井 穂高, 平井 悠介, 田中 正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 清水 美憲, 濱田 博文, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 小松 孝太郎, 金 玆辰, 大谷 奨, 勝田 光, 丹間 康仁, 朝倉 雅史, 古田 雄一, 田中 怜	教育学の研究課題と方法について、論文の作成を通じて、検討する。本特論では、特に専門学会に投稿できる水準の論文の作成方法を学ぶ。そのために先行研究の検討、論文の課題の設定、研究課題に応じた方法の選択、論文の構成と一貫性などについて検討する。なお、作成した論文は、投稿形式論文発表会において発表し、他の教員からも指導助言を受けることとする。	

専門基礎科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA101	教育学演習I	2	1.0	2	秋AB	随時	藤田 晃之, 藤井 穂高, 平井 悠介, 田中 正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 清水 美憲, 濱田 博文, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 小松 孝太郎, 金 玗辰, 大谷 奨, 勝田 光, 丹間 康仁, 朝倉 雅史, 古田 雄一, 田中 怜	担当教員の指導の下で、博士論文の構想と具体的な内容について検討を行う。構想については、研究の目的と方法、論文の構成、先行研究の検討、論文の概要、研究の成果について検討する。その概要については博士論文中間発表会で発表し、他の教員からも指導助言を受ける。	
OBTA102	教育学演習II	2	1.0	2	通年	集中	藤田 晃之, 藤井 穂高, 平井 悠介, 田中 正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 清水 美憲, 濱田 博文, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 小松 孝太郎, 金 玗辰, 大谷 奨, 勝田 光, 朝倉 雅史, 丹間 康仁, 古田 雄一, 田中 怜	国際学会での発表を行えるような研究者としての知識と技能を養うことを目的とする。そのために、英文による論文作成のための基本的知識と技能の習得を図る。その成果として、海外での研究発表を行うこととする。	
OBTA103	フィールドワーク研究	2	1.0	2	通年	集中	藤田 晃之, 藤井 穂高, 平井 悠介, 田中 正弘, 遠藤 優介, 名畑目 真吾, 徳永 智子, 京免 徹雄, 清水 美憲, 濱田 博文, 樋口 直宏, 平田 諭治, 國分 麻里, 唐木 清志, 長田 友紀, 蒔苗 直道, 上田 孝典, 田中 マリア, 菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ, 山本 容子, 小松 孝太郎, 金 玗辰, 大谷 奨, 勝田 光, 朝倉 雅史, 丹間 康仁, 古田 雄一, 田中 怜	社会人の学生を対象に、現場でのフィールドワークの研究方法について修得することを狙いとする。そのために、学校、大学、職場等での、フィールドワークの意義、方法、具体的な手順等について、担当教員の専門領域に適した内容を習得する。	

専門科目

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA201	教育哲学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	平井 悠介	教育哲学の思考法を理解するために、教育哲学における基本文献を講読し、研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための研究指導も併せて行う。講読する基本文献は、John Dewey, Democracy and Education(1916)とし、外国語文献を理解するための研究方法を理解するとともに、教育目的を内在的にとらえるデュエイ思想に教育哲学的思考の一つのあり方を理解することを目指す。	
OBTA202	教育哲学研究法II	2	3.0	1 - 3				教育哲学の思考法を理解、深化するために、教育哲学と関連する諸分野(倫理学、政治・社会哲学等)における基本文献を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を、教育哲学へと接合させる論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、John Rawls, Theory of Justice(1971)とし、現代政治哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、教育の課題との関連性について理解、考察を深めることを目指す。	2026年度開講せず。
OBTA203	教育哲学研究法III	2	3.0	1 - 3				教育哲学の思考法を理解、深化させるために、近代教育学の探究の外に置かれた家庭をめぐる課題を探究する教育哲学研究を講読し、当該分野の研究課題について議論する。また、議論を通じて得られた研究知見を応用した論文を作成するための研究指導を併せて行う。講読する基本文献は、Harry Brighouse and Adam Swift, Family Values(2014)とし、現代教育哲学の研究課題、および論争点を理解するとともに、国家と家庭の対立の調停という教育哲学的課題の探究を深めることを目指す。	2026年度開講せず。
OBTA211	高等教育論研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	田中 正弘	量的研究法の基礎を学び、質問紙調査のデザインおよび実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータを用いて現象の説明を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、量的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	教室は人間系学系B棟B520
OBTA212	高等教育論研究法II	2	3.0	1 - 3				質的研究法の基礎を学び、面接などの実施方法を修得する。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わる質的データを収集する。それらのデータを用いて仮説の検証を試み、その結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、質的研究法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	教室は人間系学系B棟B523/524 2026年度開講せず。
OBTA213	高等教育論研究法III	2	3.0	1 - 3				比較教育学の分析方法を援用し、大学を対象とする研究方法の基礎を学ぶ。そして実際に、自らが立てた課題の解決に必要な、大学に関わるデータを収集する。それらのデータの分析結果を論文にまとめ、その内容について受講生の間で批判的に討議する。これらの作業を通して、質的データの分析方法を用いた論文作成のための知識・技能を身につける。	教室は人間系学系B棟B520 2026年度開講せず。
OBTA221	日本教育史研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	平田 諭治	日本教育史における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究課題を設定し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロニアリズムとの結びつきを課題化する。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA222	日本教育史研究法II	2	3.0	1 - 3				日本教育史における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるために研究動向を把握し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロナリズムとの結びつきを調査する。	2026年度開講せず。
OBTA223	日本教育史研究法III	2	3.0	1 - 3				日本教育史における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。日本の教育・文化の歴史的構造をグローバル・スケールで考えるための研究方法を構想し、国民教育システムの形成・確立・変容を、帝国規模の変動や国際関係の力学と重ねながら、具体的かつ実証的に解き明かすことを目指す。近現代を中心とするが、日本教育史の全般を視野に入れることを心がけ、ナショナリズム/オリエンタリズム/コロナリズムとの結びつきを方法化する。	2026年度開講せず。
OBTA231	生涯学習・社会教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	上田 孝典, 丹間 康仁	生涯学習・社会教育学に関する研究について、基本文献や最新の学術文献を購読するとともに、関連領域を含めた歴史、思想、法制度、政策、行財政などについて理解を深め、研究の基盤となる知見を習得する。そのうえで、それぞれの研究テーマに関わる先行研究について発表しあい、研究の到達点や残された課題、新しい研究方法や研究の視点などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	
OBTA232	生涯学習・社会教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				生涯学習・社会教育学に関する研究課題について、国内外の研究動向を踏まえながら、各自の課題意識や研究関心を探求し、研究テーマの検討を行う。そのうえで、それぞれの研究テーマについて発表しあい、問題の所在やテーマの妥当性、研究の意義などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	2026年度開講せず。
OBTA233	生涯学習・社会教育学研究法III	2	3.0	1 - 3				生涯学習・社会教育学に関する研究方法について、国内外の先行研究を踏まえながら、各自の研究テーマに即した方法論を検討する。そのうえで、それぞれの研究方法について発表しあい、課題と方法の整合性や理論的枠組みの考察、調査方法の正確性、仮説の設定と結論を導く論理構成などについて受講生の間で討議を行うことで、研究論文を作成するために必要な研究能力を育てる。	2026年度開講せず。
OBTA241	教育制度学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	藤井 穂高	教育制度学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	
OBTA242	教育制度学研究法II	2	3.0	1 - 3				教育制度学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	2026年度開講せず。
OBTA243	教育制度学研究法III	2	3.0	1 - 3				教育制度学における先行研究について検討する。研究課題を設定する際の先行研究の踏まえ方について適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究の枠組みについて発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらのことを通して論文作成のための研究指導を行う。	2026年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA251	学校経営学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	濱田 博文	学校経営学についての基本文献を講読するとともに、戦後の学校経営に関する教育政策の歴史的展開をたどりながら、研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究的な関心について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の教育政策および研究の進展について討議し、学校経営学の最新の研究動向を把握する。これらを通して、各受講生が論文作成をおこなうための研究課題を明確にして、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	
OBTA252	学校経営学研究法II	2	3.0	1 - 3				学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究の基礎となる概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題について発表しあい、それに関わる最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究方法の在り方を把握する。これらを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討して、論文作成のために必要な研究能力を育てる。	2026年度開講せず。
OBTA253	学校経営学研究法III	2	3.0	1 - 3				学校経営学についての最新の学術文献を講読するとともに、近年の学校経営に関する教育政策の展開をたどり、発展的な研究を推進するための最先端の基礎概念や理論について理解を深める。そのうえで、各受講生の研究主題と研究課題、ならびに研究方法の具体について発表しあい、同時に最新の教育政策および最新の研究状況について討議し、学校経営学の最新の研究課題と研究方法の在り方を把握する。これらを通して、各受講生が明確にした研究課題を踏まえながら適切な研究方法の在り方を検討するとともに、論文全体の構成を吟味し、論文作成のための総合的な能力を育てる。	2026年度開講せず。
OBTA261	比較・国際教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	菊地 かおり, タスタンベコワ クアニシ	比較・国際教育学における研究課題について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究の系譜を学ぶとともに教育理念・思想、教育制度・政策、教育内容と方法などを研究対象とするさいに、比較・国際教育学の視座から設定できる研究課題の枠組みに焦点を当てて関連文献の検討を行う。さらに、比較教育学研究における研究者のアイデンティティとポジショナリティ形成に焦点を当てて、研究倫理に関する指導を行う。	
OBTA262	比較・国際教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				比較・国際教育学における研究動向について議論し、論文作成のための研究指導を行う。特に、比較教育学研究の歴史的展開において各時代における研究動向を関連文献の検討を通して整理する。また、研究対象別に各時代、各地域の政治・経済・社会体制の違いによる研究動向の特徴を捉える。冷戦の終焉、グローバル化と新自由主義の進展が各国の教育に与える影響を分析する研究の標準化に関する批判的検討を行い、研究の独自性、学術的価値について議論する。	2026年度開講せず。
OBTA263	比較・国際教育学研究法III	2	3.0	1 - 3				比較・国際教育学における研究方法について議論し、論文作成のための研究指導を行う。比較教育学研究における質的調査と量的調査の特徴を把握し、研究対象の地域的、政治・経済・社会的特徴に対応した研究方法について関連文献の検討を通して議論する。研究対象に関わる一次資料の入手に必要な外国語運用能力、エスノグラフィー、ライフヒストリー、ライフストーリー、参与観察などの方法に求められる研究者ネットワークの課題について議論する。	2026年度開講せず。
OBTA271	教育社会学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	徳永 智子	教育社会学における研究課題の設定について検討する。研究課題の設定の仕方を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行う。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OBTA272	教育社会学研究法II	2	3.0	1-3				教育社会学における研究方法のあり方について検討する。研究課題に応じて適切な研究方法を考えるのに適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行う。	2026年度開講せず。
OBTA273	教育社会学研究法III	2	3.0	1-3				教育社会学における国際的な研究課題とそのための研究方法について検討する。そのために適切な先行研究を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行う。	2026年度開講せず。
OBTA301	カリキュラム研究法I	2	3.0	1-3				カリキュラム研究の分野での研究方法の習得ならびに論文執筆のための基礎的な知識の獲得を目的としている。そのために、本授業では受講者の研究関心に即して研究発表を行ってもらう。さらに発表内容を参加者全体で討議することを通して、内容をカリキュラム研究の文脈に位置付けて改善を図っていく。	2026年度開講せず。
OBTA302	カリキュラム研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時	田中 怜	カリキュラム研究の分野での主要ジャーナル(日本カリキュラム学会の『カリキュラム研究』や日本教育方法学会の『教育方法学研究』、あるいは日本教育学会の『教育学研究』)への論文投稿と掲載を目標に据えて、授業者が論文執筆の発展的な技法を習得することを目的としている。研究発表と討議を通して、問題関心の先鋭化やテーマ選択の妥当性、カリキュラム研究上の意義などといった諸点から執筆論文の質を高めていく。	
OBTA303	カリキュラム研究法III	2	3.0	1-3				カリキュラム研究の分野での博士論文の執筆を目指して、問題設定の立て方、研究方法の選択、そして論理構成の組み立てなど実践的な研究指導を行っていく。受講者が研究発表とそれに対する討議を積み重ねることで、自律したカリキュラム分野の研究活動が遂行できるための研究力を備えることが目指される。	2026年度開講せず。
OBTA311	教育方法学研究法I	2	3.0	1-3	通年	随時	樋口 直宏	学習指導理論と学習過程を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、学習指導理論と学習過程に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討議する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	
OBTA312	教育方法学研究法II	2	3.0	1-3				教授スキルと指導効果を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教授スキルと指導効果に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討議する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	2026年度開講せず。
OBTA313	教育方法学研究法III	2	3.0	1-3				教師効果と学習意欲を中心に取り上げ、このテーマに関する理論的および実証的研究を行う。これらを通じて、教育方法学に関する発展的な知見を習得し、論文としてまとめることを目標とする。具体的には、教師効果と学習意欲に関して、日本教育方法学会『教育方法学研究』や日本教育工学会『日本教育工学雑誌』等の学会誌を中心とした論文の検討や実践分析を行いながら討議する。これらについて、受講者各自の研究テーマと関連づけながら、理論もしくは調査研究に関する報告を行うとともに、各自もしくは共同での論文作成へとつなげていく。	2026年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	担当教員	授業概要	備考
OBTA321	道徳教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	田中 マリア	道徳教育学研究に資する学術論文執筆技能の獲得をめざし、受講者が研究能力を身につけるための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究と結びつけながら、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について学んでいく。受講者は自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めようと試みる。	
OBTA322	道徳教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				道徳教育学研究に資する学術論文執筆技能の向上をめざし、受講者が研究能力を培うための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究の文脈においてとらえ、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について掘り下げようと試みる。受講者は自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度を高めていく。	2026年度開講せず。
OBTA323	道徳教育学研究法III	2	3.0	1 - 3				道徳教育学研究に資する学術論文執筆技能の更なる向上をめざし、受講者が研究能力を高めるための実践的、総合的研究指導を行う。具体的には各受講生がそれぞれ、自己の研究関心や研究課題を道徳教育学研究の文脈に位置づけ、最新の先行研究の動向をおさえた上で、その研究主題、課題設定、研究手法等について掘り下げる。受講者は自身の研究構想、論文執筆計画について発表し合い、相互に検証や討議を重ねながら、その精度をより高めていく。	2026年度開講せず。
OBTA331	キャリア教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	集中	藤田 晃之, 京免 徹雄	キャリア教育の目的について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、戦後日本の学校教育における職業指導・進路指導・職業教育、及び、アメリカを中心に理論化がなされてきたvocational guidance, career guidance, career education, career and technical education等との比較検討を、主要な先行研究を対象として分析しつつ議論することを中核とする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	
OBTA332	キャリア教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				キャリア教育の内容について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、小学校・中学校・高等学校における児童生徒の発達段階に即して育成すべき資質・能力とそれらにふさわしい指導内容の検討(国内外の先行研究の分析)を中核に据えつつ、資質・能力をめぐるベンチマーク(到達目標)の設定や学習状況のモニタリング、学習成果の評価の在り方も視野に収めて議論する。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	2026年度開講せず。
OBTA333	キャリア教育学研究法III	2	3.0	1 - 3	通年	随時	藤田 晃之, 京免 徹雄	キャリア教育の方法について、受講者による研究報告に基づき議論することを通して、研究能力の向上を図る。具体的には、主に集団の場面で必要な指導や援助を行うガイダンスと、個々の児童の多様な実態を踏まえ、一人一人が抱える課題に個別に対応した指導を行うカウンセリングの双方を扱う。前者に関しては特に教科・科目を通じた実践の在り方、後者については予防・開発的な支援・指導の在り方に焦点をあてながら、国内外の関連研究の分析を行い、議論をする。その際、それぞれの研究における課題の設定・研究対象の選定・分析の方法などについても検討を加えることを通して、受講者の研究能力の向上を図る。	
OBTA341	社会科教育学研究法I	2	3.0	1 - 3				社会科教育の論文作成の基礎について考察する。論文の目的の設定、論文の枠組みについて講義や討論を通して考察し、論文の基礎についての理解と考察を深める。	2026年度開講せず。
OBTA342	社会科教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				社会科教育の先行研究となる論文が、どのように目的を設定し、論文の枠組みを立てているか分析し、その結果を共有し批判的考察をすることで論文を構成する能力を育む。	2026年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA343	社会科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時	國分 麻里, 唐木 清志, 金 玟辰	社会科教育学の目的、方法、内容を踏まえて、どのようにオリジナリティを持たせた論文を作成できるのか、自分の研究成果を論文として書きながら考察し、論文作成の実践力を身につける。	
OBTA351	人文科教育学研究法I	2	3.0	1-3				現時点における言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)研究の範囲とそれぞれの水準を把握することをめざして、主たるレビューに依拠しつつ関連分野における先行研究の講読、討議を行う。次いで受講者が各自の関心に即した領域についてテーマを設定し、自らの先行研究の収集・整理によって行ったレビューを行い、他の参加者との討論を通してレビューの内容を洗練させるとともに自らの研究課題を鮮明にすることを旨とする。	2026年度開講せず。
OBTA352	人文科教育学研究法II	2	3.0	1-3				言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)の実態に即してその問題を明らかにするとともに、それぞれの問題の構造を理解することを目指す。そのために国際比較、また主要なトピックにかかわって歴史的な視点に基づく基本的な文献や原資料を用いつつ、教育課程における言語教育の位置づけ、教材選択の視点、指導方法の選択、児童生徒の学習の実際、そして評価の在り方など、時宜に応じたテーマに関して意見交換・討論を行う。	2026年度開講せず。
OBTA353	人文科教育学研究法III	2	3.0	1-3	通年	随時	長田 友紀, 名畑目 真吾, 勝田 光	言語教育(国語教育・母語教育・日本語教育・英語教育)に関する調査研究に関して、代表的な研究や最新の研究を読んだり各自の調査研究を報告し合ったりすることで、実験的調査や観察調査・フィールドワークなどの手法を洗練させることをねらう。	
OBTA361	数学教育学研究法I	2	3.0	1-3				数学教育学の内外の文献の検討を通して研究方法論の基礎を学ぶとともに、具体的な実証的研究の事例を批判的に検討する。特に、数学学習、数学的問題解決、数学における理解等に関する実証的研究の進展を、各時代における他の研究分野からの影響と研究パラダイムの進展に注意しながら検討するとともに、その根底にある研究方法論の展開を時系列に沿って検討する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題(リサーチクエスチョン)の設定のあり方と研究方法論を学ぶ。	2026年度開講せず。
OBTA362	数学教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時	清水 美憲, 蒔苗 直道, 小松 孝太郎	数学教育におけるカリキュラム改革について、海外の事例に関する文献講読を通して検討し、数学カリキュラムを比較文化的観点を加味して検討する。また、数学カリキュラムの構成原理、学問領域としての数学と学校数学との関係のあり方を規範的に考察する。この過程を通して、各自の問題意識に基づく研究課題の意義とその具体化のあり方、その研究目的に基づく適切な研究方法の考察を行う。	
OBTA363	数学教育学研究法III	2	3.0	1-3				数学教育学における理論的研究・歴史研究を中心に内外の文献を検討し、研究方法論について学ぶとともに、具体的な研究事例を取り上げ批判的に検討する。特に、数学教育研究が数学教育の教育課程や実践の改善に対して果たす役割を考察し、各自の研究目的からみた数学教育改善への示唆を導出する。この過程で、各自の研究課題に引きつけて、数学教育学の特質とその意義を考察する。	2026年度開講せず。
OBTA371	理科教育学研究法I	2	3.0	1-3				理科教育学の基本的テーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での基礎を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書を読み、その研究方法と着想について論究する。ここでは、理科教育・科学教育の基礎研究について、特に、理科教育研究の問いのあり方、探究的な科目としての「理科」のあり方、女子の理科教育、科学教育改革の動向等を取り上げ、そこでの研究方法論の妥当性を探る。	2026年度開講せず。
OBTA372	理科教育学研究法II	2	3.0	1-3	通年	随時	山本 容子, 遠藤 優介	受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教育の内容・カリキュラム研究の方法論について検討する。具体的には、教科書分析、教材分析、教育内容としてのNOS(Nature of Science)論、アナロジー論等の研究方法を扱う。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA373	理科教育学研究法III	2	3.0	1 - 3				受講者の関心あるテーマを取り上げ、理科教育学研究を進める上での高度な実践的力量を形成することをねらいとする。内外の重要論文・著書の講読と受講者各自の発表を中心とする。ここでは、理科教授学習研究の研究手法論について検討する。具体的な事例としては、科学概念変容研究、協同学習と社会的構成論、アーギュメンテーション論等の研究方法を扱う。	2026年度開講せず。
OBTA381	特別活動学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	京免 徹雄	特別活動の思想、歴史、理論に関する文献を講読することで、戦前および戦後における教科外活動の発展過程を理解するとともに、「自治的活動」「生活づくり」「集団活動」「自主性・自発性」「話し合い」などの基本的概念について分析し、教育学におけるその位置づけを検討する。その上で、各受講生が自らの研究テーマについて発表し合い、最新の研究内容について議論する。その過程で、特別活動に対する思想的・歴史的・理論的アプローチの方法を体得し、研究論文の作成に必要な能力の向上を図る。	
OBTA382	特別活動学研究法II	2	3.0	1 - 3				特別活動の量的・質的な調査研究に関する文献を講読することで、教科外活動の実証的研究と解釈的研究の到達点を理解するとともに、政策と研究の関係、エビデンスと教育実践の関係、個と集団のデータの関係、研究者と実践者の関係などを分析し、特別活動研究の方法論的独自性について検討する。その上で、各受講生が自らの研究テーマについて発表し合い、多様な研究方法について議論する。その過程で、特別活動に対する定量的・定性的アプローチの方法を体得し、研究論文の作成に必要な能力の向上を図る。	2026年度開講せず。
OBTA383	特別活動学研究法III	2	3.0	1 - 3				海外の教科外活動に関する文献あるいは日本の特別活動に関する文献を講読することで、多様な教科外活動の共通点と相違点を理解するとともに、教育モデルの海外移転の現状を分析し、日本型教育モデルとしてのTokkatsuの国際化について、可能性と課題を検討する。その上で、各受講生が自らの研究テーマについて発表し合い、研究の国際的動向について議論する。その過程で、特別活動に対する比較アプローチの方法を体得し、研究論文の作成に必要な能力の向上を図る。	2026年度開講せず。
OBTA391	教育政策学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	古田 雄一	教育政策学に関する基本文献の講読や、最新の学術研究のレビューを通じて、教育政策学の研究課題の設定について検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行い、研究論文の作成に必要な能力の向上を目指す。	
OBTA392	教育政策学研究法II	2	3.0	1 - 3				教育政策学に関する調査研究に基づく文献の検討を通じて、教育政策学における研究方法のあり方について検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行い、研究論文の作成に必要な能力の向上を目指す。	2026年度開講せず。
OBTA393	教育政策学研究法III	2	3.0	1 - 3				教育政策に関する諸外国の文献の検討を通じて、教育政策学における国際的な研究課題を把握し、それに応えるための研究方法を検討する。そのうえで、各受講生の研究課題について発表しあい、各自の研究関心に関わる最新の研究動向について討議する。これらを通して論文作成のための研究指導を行い、研究論文の作成に必要な能力の向上を目指す。	2026年度開講せず。
OBTA401	教育学先端研究I	4	1.0	1 - 3	秋C	集中	藤田 晃之	国内外の教育学研究の最新動向を把握し、それを既存の研究分野にとらわれない形で押さえた上で、課題が重層化し複合化する多様な教育問題の本質へのアプローチの方法を考える。	西暦偶数年度開講。 使用言語は日本語または英語。科目等履修生受講希望者は、教育学学位プログラムに申請し、承認を受ける。西暦偶数年度開講。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	担当教員	授業概要	備考
OBTA402	教育学先端研究II	4	1.0	1 - 3				国内外の教育学研究の最新動向を把握し、特定のテーマを取り上げて、研究課題や研究方法論について研究事例の検討を通して理解する。	西暦奇数年度開講。 使用言語は日本語または英語。科目等履修生受講希望者は、教育学学位プログラムに申請し、承認を受ける。西暦奇数年度開講。
OBTA411	教師教育学研究法I	2	3.0	1 - 3	通年	随時	朝倉 雅史	教師教育学の研究課題を検討するために、教師教育学における概念・歴史・制度・政策および教師の職能発達過程に関する基本的な文献を講読する。受講者は各自の研究テーマに関わる先行研究と動向を批判的に検討しながら、その成果と課題を的確に捉えられるようになることを目指す。そのために、受講者の発表に基づく批判的な討議を行うと共に、研究課題の設定に向けた研究指導を行う。	
OBTA412	教師教育学研究法II	2	3.0	1 - 3				教師教育学における多様な研究方法を検討するために、研究方法論に関する基本的文献および先行研究を講読する。受講者は各自の研究テーマに対する研究方法と手続きを検討する中で、研究課題にアプローチする際の認識論的・方法論的立場を理解し、具体的な研究方法を用いるための能力を身につける。そのために、受講者の発表に基づいて各自の研究課題と方法の関係を討議すると共に、適切な研究方法のあり方を指導する。	2026年度開講せず。
OBTA413	教師教育学研究法III	2	3.0	1 - 3				教師教育における最新の研究課題と方法を捉えるために、関連する国内外の政策動向および研究動向を検討する。受講者は教師教育に関する最先端の理論・概念・研究方法を検討したうえで、各自の研究テーマ・研究課題・研究方法を具体化し、その意義を明確化できるようになることを目指す。そのために、自らの研究の枠組みと論文全体の構成を発表し合い、それを受講者間で吟味すると共に、論文作成に向けた研究指導を行う。	2026年度開講せず。
OBTA501	教育実践研究の方法	4	1.0	1・2	夏季休業中	集中	藤田 晃之, 山本容子, 小松 孝太郎, 千島 雄太	教育実践研究を進める上で必要となる方法論について、質的研究法と量的研究方法の両面より学び、教育実践研究に関する方法論を体系的に修得する。	
OBTA502	教育実践研究の探究	1	1.0	1・2	夏季休業中	集中	唐木 清志, 米田宏樹, 朝倉 雅史, 京免 徹雄	自らの教育実践研究を振り返り、研究上の課題を明らかにしながら、教育実践研究をさらに向上させるための方策を探究する。	